

歳時記のある暮らし

二〇二四年

《十月》

空気が澄み朝夕の涼しさが際立ってきました。

皆様、すこやかに過ごしてでしょうか。

いつも『神秘の健康力』をご愛用いただき誠にありがとうございます。

どこからともなくキンモクセイの甘い香りが漂い、イチノ木のギンナンや田んぼの上の赤トンボに気がきます。運動会や文化祭などの催しに胸が高鳴る季節です。

八日からは「鴻雁来(こうがんきたる)」。雁が冬越しのために戻ってきます。秋の夕焼けを背景にV字型土隊列で飛行する雁行のシルエットは心にしみるものがあります。V字型で飛ぶ理由は、前で飛ぶ雁の動きが上昇気流を起こし、後からついてくる雁が楽に飛ぶことができるからです。そして、先頭の雁が疲れると最後尾に回り、別の雁と交代します。結果、一羽では考えられないくらいの遠距離移動を叶えるのです。

「秋は、夕暮。夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるがいと小さく見ゆるは、いとをかし。」と「枕草子」にあります。森鷗外「雁」では、上野の不忍池にいる雁の描写があります。東京都心でも普通に雁が見られたのです。日本の文学者が雁を作品の中で叙述してきたのは、雁に心打たれる仲間愛を見出したからかもしれません。

十五日は「十三夜」。九月の「十五夜」よりも月が明るさを増す十三夜にもう一度お月見を楽しもうという風習です。秋が進むと海育ちの太平洋高気圧特有の空気中の水蒸気、気圧が少なくなり、空が澄んで月が明るくつきりと見えます。

馬で来る神嘗祭の勅使かな

野田別天楼

実りの秋は豊作を感謝して各地で秋祭りが行われます。十月十七日を恒例とする伊勢カ神宮の神嘗祭(かんなめさい)は、その年に収穫された新穀を最初に天照大御神(あまてらすおおみかみ)に捧げるお祭りです。

(裏へ続きます)

『神秘の健康力』

定期購入 30粒 2,700円(税込)~

商品の注文・変更をご希望の場合は、下記にお電話ください。

☎0120-63-2222

※おかけ間違いにご注意ください。

【営業時間】

9:00~18:00 (12/31~1/2は休日)



十八日からは「蟋蟀在戸（きりぎりすとにあり）」虫の鳴き声も秋の風物ですね。「コオロギが家の玄関のあたりにいる」という意味ですが、これは中国最古の詩篇「詩經」の中の農民の暮らしを描いた漢詩に由来します。七月には野原にいたコオロギが、八月には家の軒下に、中秋から晩秋には家の戸口あたりまで入って来て、冬を迎えるころには寝台の下までやって来ると、徐々に人に近づくコオロギのふるまいに、刃（や）び寄ってくる冬を重ね合わせて叙述しています。

「枕草子」の中に「虫は鈴虫。ひぐらし。蝶。松虫。きりぎりす。はたおり。」とあり、好ましい虫として鳴く虫も挙げられています。平安時代には虫の鳴き声を楽しむという風流な遊びがありました。江戸時代になると竹籠にスズムシやコオロギなどを入れて売る「虫売り」があらわれ、虫の鳴き声を楽しむ文化が庶民にも広まりました。自然の音には様々なリラックス効果がありますが、古くから人は虫の声にもやすらぎを感じてきたようです。特にマツムシの澄んだ響きは美しく、環境省が選定した「残したい日本の音風景百選」に「淀川河川敷（淀川河川公園）の大淀野草地区」のマツムシ」が選ばれています。

この時季にやるべきことは、寒い季節を迎える前に秋の自然を楽しむことです。暮らしの面では、布団や敷物を洗濯し天日干しにして梅雨に発生したカビの胞子などを除去しておきたいものです。寒くなると部屋の気密性が高くなり加湿器の使用も予想されますのでダニやカビが発生しやすくなります。目に見えなくても放っておくとぜんそくや肺炎の原因にもなるので、本格的な寒さを迎える前に対策を講じておきましょう。

健康対策には『神秘の健康力』。商品のご注文やご変更などございましたらいつでも（0120-63-2222）までご連絡ください。

皆様のご健康をお祈り申しあげます。

金氏高麗人参株式会社

おもてなし係お手紙担当 久郷 直子

